

(中間C)

評価分科会総合評価

研究課題名：次世代非静力学気象予測モデルの開発に関する研究

評価分科会（予報分野）

分科会長：田中正之

委員：岩崎俊樹、木村富士男、佐藤 薫、藤吉康志

評価年月日：平成24年1月13日

1. 総合評価

- (1) 継続の可否 継続 中止
(2) 修正の必要の有無 修正の必要あり 修正の必要なし

2. 総合所見

予測モデルの高解像度化を進めるにあたり、とりわけ豪雨や豪雪、シビア現象をもたらす小スケール擾乱にとって重要な非静力学的性質の再現は必須であり、雲微物理過程の精緻化や、海洋モデル、波浪モデルとの結合を含む予報モデルの開発が重要である。本研究課題はそれを正面から取り組むものであり、社会的意義は極めて高い。

順調に進捗しており、気象庁の業務からみても学術的にも高い成果が出ている。目標の達成度については、基本的に終着点の無いモデル開発ではあるが、おおむね達成したと判断できる。今後は、具体的な観測結果に対してその再現性を WRF や CReSS などの他のモデルとの比較結果を示しながら、モデルパフォーマンスを定量的に示すと、達成度が分かりやすい。

高解像度モデルに求められる観測データが不十分であることを始め幾つかの困難が予想されるが、そうした困難の克服も含めて当初に目指した研究成果が十分に期待される。限られた人数で効率的に研究を進めるために、優先度を付けて研究を進めていただきたい。また、全球非静力学モデルの開発については、その重要性が理解できるが、研究計画の全体像が不明確であることから、説明努力の改善をしていただきたい。